



第15回

日本在宅医学会大会 in 愛媛

ランチオンセミナー④

2013年

3月30日 ④ 12:10~13:10

真珠の間B (ひめぎんホール 2階)

〒790-0843 松山市道後町2丁目5番1号

座長 株式会社ホームメディケア 代表取締役 中矢 孝志 先生

認知症治療薬理解の ポイントおよび 周辺症状に使う薬の注意点

演者 有限会社くろしお薬局 代表取締役副社長 川添 哲嗣 先生

共催 第15回日本在宅医学会大会
第一三共株式会社

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	ランチョンセミナー
共 催	第一三共株式会社
タイトル	認知症治療薬理解のポイントおよび周辺症状に使う薬の注意点
日 時	平成 25 年 3 月 30 日 12:10～13:10
会 場	真珠の間 B
演 者	旬くろしお薬局代表取締役副社長 川添 哲嗣 先生
座 長	株式会社ホームメディケア 代表取締役社長 中矢 孝志 先生
企画趣旨	<p>1・中核症状に用いる薬剤に関して 認知症の中核症状に使用する薬剤として、現在ドネペジル塩酸塩をはじめとして4剤存在するが、それら4剤の薬理的な作用機序を説明することが少々難しいといった声をよく耳にする。今回のセミナーではまずそれらを理解していただくためのポイントをわかりやすくお伝えしたい。</p> <p>ポイント</p> <p>① ドネペジルの作用点 ② リバスタグミンの作用点と副作用のポイント、そしてなぜ貼付薬なのか ③ ガランタミンの作用点とアロステリック部位への結合の意味 ④ メマンチンの作用点、①～③との大きな違い、副作用のポイント</p> <p>2・周辺症状に用いる薬剤に関して 中核症状を悪く見せてしまう周辺症状への対応のひとつに薬剤がある。どのような症状にどのような薬剤を使用するのかを整理しておきたい。また認知症のタイプによっては使用を注意すべき薬剤もあるので把握しておきたい。しかし、もっとも理解していただきたいのは、周辺症状への対処は薬剤が最初的手段ではないということである。</p> <p>ポイント</p> <p>① 周辺症状への使用薬剤 ② 認知症のタイプと使用を注意すべき薬剤 ③ 周辺症状を引き起こす3大要因と薬剤の関係</p> <p>3・認知機能の低下を起こす薬剤 認知症のひとつのタイプとして薬剤性認知症がある。では、どのような薬剤がなぜ認知機能低下を引き起こしてしまうのか。そして普段から何を注意して処方（調剤）すべきなのか。このことについて整理しておきたい。</p>